

## 分野:構造機能医学

主科目 副科目	生化学/臨床医科学 Basic and clinical biochemistry	DM_1103	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎安達 三美 飯塚 眞由		西森 茂樹	諏佐 崇生 久樹 晴美 秋元 美穂	岡崎 貝樹
	◎月田 早智子 (戦略的イノベーション研究センター)				
-					
-					

	生化学/臨床医科学Ⅰ (1年次)				生化学/臨床医科学Ⅱ (2年次)				生化学/臨床医科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	サイエンスにどっぷり入り、自分でしかなし得ない発見の喜びを知る機会をお与えしたい。約3年間、諸君の時間をござりいただきたい。基礎医学で独立する道もvery welcomeである。				分子生物学の実験手法を系統的かつ徹底的に学び、自らのレベルを省みて、より高くより深い世界基準を理解する。臨床からもたらされる未解決の問題を常に意識できる環境を提供する。				国内外の学会、研究会に自分のデータを持って参戦できる能力を身につける。卒業までに海外超一流誌に1編以上first authorとして発表する。			
到達目標	① 分子生物学の実験手法を系統的かつ徹底的に学び、常に自らのレベルをブラッシュアップさせて、より高く、より深い世界基準を理解できる。 ② 臨床に直結していようが、一見臨床とは無関係であろうかとは問わない。しかし臨床からもたらされている未解決の問題を常に意識できる環境を常に供給する。Precision Medicineを日本流に実践する環境を創る。				① 国内外の学会、研究会に自分のデータを持って臨戦できる態勢を作る。 ② 卒業までに海外超一流誌に1編以上first authorとして発表する。 ③ 世界をリードする研究室への国内外留学も選択肢の一つとする。 ④ 新しく入ってくる、諸君より若い大学院生を、指導教育することも重要。				① 糖尿病や内分泌疾患の臨床研究を主体とした形も歓迎する。 ② 2年生の生化学の授業の担当補助業務もまた魅力ある行動である。			
事前事後学修	前週のNEJM, JCIのトピックの紹介。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				前週のNature series, Cell seriesのトピックの紹介と自分の実験との関連付け。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				発表予定論文と強関連する論文の網羅的解析。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	器具の扱い方 30% ラボ内での作法の体得 30% 実験トピックの選び方の習熟程度 40%				自分の仕事に対する積極的な発展法をどれだけ自分自身で見出すことができるか。 定期的なラボミーティングでプレゼンテーション 100%				自分の仕事内容を優に一時間以上かけて紹介できる 100%			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	生化学/臨床医科学Ⅰ (1年次)	生化学/臨床医科学Ⅱ (2年次)	生化学/臨床医科学Ⅲ (3年次)
板橋	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 Real-time PCR・microarray	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 ChIP-seqを中心としたアッセイ	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 The 論文
	月 曜日 10 : 00 ~ 17 : 00 核酸の基礎実験	月 曜日 10 : 00 ~ 17 : 30 Real-time PCR・microarray	火 曜日 : ~ : 細胞培養
	月 曜日 10 : 00 ~ 17 : 00 実験動物の取り扱い	月 曜日 10 : 00 ~ 17 : 30 Laser Microdissection	曜日 10 : 00 ~ 17 : 30 生化学演習
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

Weekly~Monthlyのtop journalsを適宜紹介します。

## その他履修上の注意事項

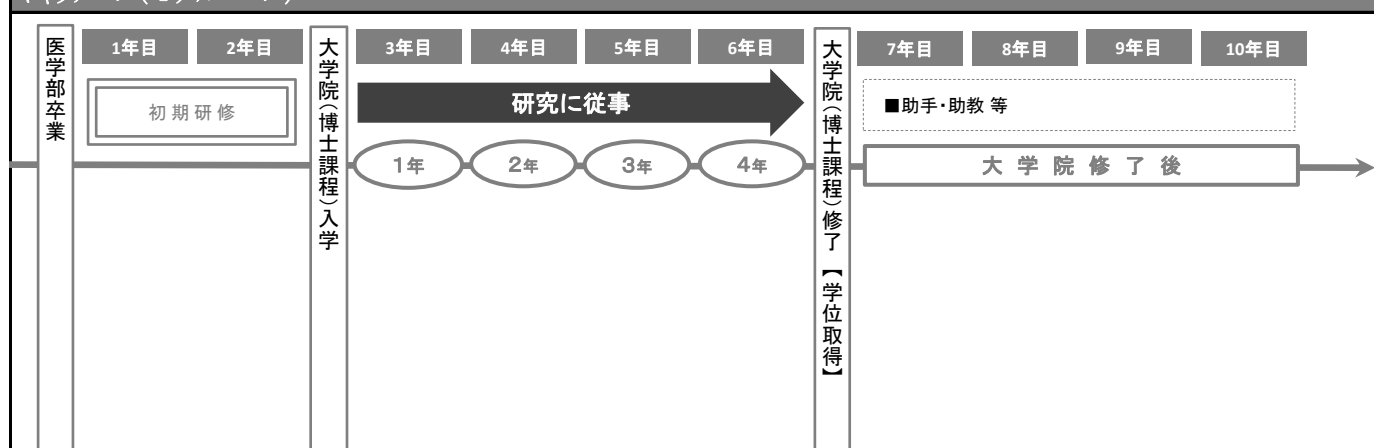
臨床に出てみて初めて気づくいまだに科学的に解明されていない病態が、多ければ多いほど、基礎研究でそいつらに太刀打ちしてみてもやろうというモチベーションが出てくるはず。医学も他の科学技術と同様にとんでもないスピードで前方ダッシュを続けています。論文も大切だけれども、経験したことのない大海の中に身を投げ出す体験は今のあなたたちでないと始められないと思います。この積極性をわれわれが感じ取ることができれば多少の齟齬には目をつぶります。試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	内科学系、臨床病理などの関連領域を1科目以上、3か月コースまたは講義・演習コースにて履修する。
	共通科目	

## 関連する専門医資格

大学院修了後、能力に応じてHarvard大学Massachusetts General Hospitalなどへ、リサーチフェローとして基礎研究活動続ける道を用意している。また、国内で、大学院修了後、内分泌代謝専門医(臨床)へ進む道も提供可能である。さらに、前述の通り、生化学教室に常勤スタッフとして残り研究を続けることも大歓迎する。

## キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。